

Q22 給食における配慮

〈このような状態は自閉症の特性からきています。〉

Aちゃんは給食当番をいやがることがあります。それは、自分の役割を把握していないために、実際の当番活動ができないことで不安を感じているからかもしれません。また一度おぼえた仕事を同じパターンで行いたがる傾向があるので、仕事の内容が変わると、見通しを持つことができず混乱してしまうこともあります。この他、Aちゃんは食事中に立ち歩くことがあるのですが、食事のマナーの理解に問題があるのかもしれません。またAちゃんは偏食があってもどうしても食べられないものがあります。

多くの自閉症の子どもには、味覚や嗅覚の過敏性の問題があります。ごはんをたいた後時間が経った時の臭いのために、給食の白飯が食べられないこともあります。大好きなカレーでも、家のカレーと味付けが違うために食べない場合もあります。

〈このような場合の支援 1〉

小学校6年生の自閉症の女兒。給食当番になっても何をしてよいのかわからずに、教室内をウロウロしていることがあります。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ① 牛乳を配るなど、仕事内容が簡単で、終了のわかりやすい活動から始める。
- ② 手順を絵カードや写真カードで提示したり、教師や友だちと一緒に手を添えてやってみたりする。
- ③ 仕事のパターンが身に付くまで、一定の仕事を当番として任せる。

〈このような場合の支援 2〉

小学校5年生のアスペルガー症候群の男児。偏食が多く、牛乳を飲まなかったり好きなものしか食べない傾向があります。また無理に食べさせようとすると大騒ぎになります。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ④ 過敏性の問題も考えられるので、量を減らし、一口だけでも食べてみるように促すが、決して無理強いはいしない。
- ⑤ 好きな物だけをお代わりしたがる時は、全部食べたらお代わりという約束を決める。
- ⑥ 特定の食べ物に関して食べられない傾向がある場合は、食物アレルギーの子どもと同様に、学級での特例として教師自らが理解する。
- ⑦ 嗜好や家庭の食習慣の把握や、共通理解のために家庭と連携をとり、保護者の意見を指導に取り入れる。

学級担任の記録(メモ)

<項目の利用回数>



月／日	対象児の問題	教師やクラスの子どもの対応	対応後の対象児の様子